

朝食会講話シリーズ
vol. 333

環境と経済の共生による地域経済の活性化策」
～ 尼崎版グリーンニューディールの取組～



尼崎市 理事
福嶋 慶三



尼崎市 理事

福嶋 慶三 (ふくしま けいぞう)氏

略 歴

昭和 50年 京都府生

立命館大学法学部卒業

神戸大学大学院法学研究科修了

平成 14年 環境省入省

地球環境局総務課、地球温暖化対策課にて国際交渉に参加、その後、小泉政権下における内閣官房構造改革特区推進室 地域再生推進室での勤務等を経て、英国に留学。サセックス大学大学院環境開発政策修了。政権交代に伴い、再び内閣官房副長官補室で温室効果ガス25%削減のための検討チームに所属。その後、環境省環境保健部企画課、大臣官房会計課、政策評価広報課等で勤務。

平成 23年 7月より尼崎市に出向、現在に至る

はじめに

おはようございます。

高いところから失礼します、尼崎市の福嶋でございます。

今ほど、私の自己紹介をいただきましたが、若干だけ繰り返させていただきますと、昨年の7月に尼崎市の方に赴任いたしました。

稲村市長の方から、是非この尼崎を持続可能な街にしたい、特に財政面もありますけれども、環境面、或いは経済面、そういった面でも持続可能な街にしていきたいと、特に市長が言われておりますのが、環境と経済を如何に共生させていくのかということでございます。

歴史を紐解けば、尼崎市は公害問題などを抱えてきた街ですけれども、そういった公害問題を乗り越えて、公害問題だけでなく今後の地球環境問題を乗り越えていくための、尼崎市はたくさんの強みを持っているのではないかと思います。

そういったものをうまく活かしながら、経済政策と環境政策をうまく融合させて取り組む事が、これからの時代の新しいモデルになるのではないかと、是非そういった事を尼崎市でもやって欲しいという事で、直接市長の方からお話をいただきまして、震災の影響もあり、着任が少し遅れたこともありますが、昨年の7月から着任いたしまして、現在、市長からいくつか特命をいただき取り組んでおります。

その中でもとりわけ、この「尼崎版グリーンニューディール」とここに書いてありますように、環境と産業の共生、そして地域経済の好循環を目指して」ということで、検討を進めてまいりました。

それで本年3月に、報告の方を取りまとめましたので、それについての概略を今日は説明させていただきたいと思っております。

先ほど私の自己紹介をいただきましたので、これは割愛させていただきたいと思っております。

元々は環境省の方に入省しまして、内閣官房など、他の部署でも仕事をしておりましたが、この度、尼崎市に理事として出向させていただいているという事になります。

理事というのは分かりにくいポジションかもしれませんが、基本的にはオールラウンダーと言いますか、市長、副市長、それに次ぐポジションなんですけれども、基本的には守備範囲は市長と同じでありまして、何でも何処の部署とでもお仕事をさせていただけるという非常に私にとってはやりやすいと言いますか、職責を与えていただいております。

以前仕事をしてきた部署は、内閣官房と環境省で、縦割りの部局と横串の部局でそれぞれお仕事をさせていただきました。

今、自分自身が尼崎市の中では企画財政局という部署に物理的な席を置かせていただいておりますが、企画財政局というのは、国の組織図で言えば内閣官房、所謂総理を支える組織、プラス財務省とい

ような組織だと思っており、そういったところで仕事をさせていただいております。

時代に相応しい政策・制度設計を求めて

今日は概ね前半で2つのお話をしたいと思っております。

ひとつは尼崎版グリーンニューディール、AGNDという風にかかせていただいておりますけれども、これについての基本的な認識という事で、考え方の部分です。

もうひとつは、尼崎版グリーンニューディールの今後の展開と方向性という事で、より具体的な事業等も含めたお話をさせていただきたいと思っております。

これは稲村市長もよく言われていることなんですが、日本自体が、今や右肩上がりの成長はなかなか望めない。現在の中国とか東南アジアのような、日本が以前経験していたような右肩上がりの高度成長はなかなか望めないのではないかと。

そういった低成長の時代、所謂成熟の時代と。こういった時代には、それに相応しい社会制度ですとか政策、そういったものが必要ではないかということなんです。

しかしながら、年金制度にしても、国民健康保険ですとか生活保護ですとか、いろんな社会制度がありますけれども、そういったものがなかなか時代に追いついてきていないのではないかと、市長も申しております。

ですので、そういった時代に相応しい考え方と言いますか、政策・制度設計、そういったものが必要なのではないかと、言われているかと思っております。

その中で、特に環境面ですとか経済面に着目いたしますと、後ほど申し上げますけれども、幸い世界恐慌とまではいきませんでした。リーマンショックに端を発する世界経済不況、或いは雇用不安、日本においては東日本大震災もありました。

こういった中で、取り分け省エネルギーですとか再生可能エネルギー、広く環境問題について、地球温暖化などありますが、環境に対応する事が求められています。

足元を見ますと、尼崎市では「コンパクトで持続可能なまちづくり」というのを、施政方針の三本柱のひとつに掲げさせていただいております。

尼崎自身は、コンパクトで面積も小さい中に人口がたくさんいるという事で、既にコンパクトな街かと思っておりますけれども、その中でもとわけ持続可能な街を目指しているという事で、その中のひとつの手段として、今回の尼崎版グリーンニューディールというものを考えているという事でございます。

尼崎版グリーンニューディールの考え方

報告書の尼崎版グリーンニューディールという事についてなんですけれども、先ほど申し上げたように、基本的な考え方をまとめたものになります。

昨年の7月に着任させていただいてから、どゆけ市長からこの考え方について早急にまとめてくれという指示を受けまして、庁内横断的なプロジェクトチームをつくりまして、私、理事がプロジェクトリーダーになりまして、環境政策課ですとか、産業振興課、或いは政策室といったような部署と一緒に、庁内横断的に検討してまいりました。

それで昨年の12月に中間報告という形でまとめさせていただきまして、今日もちらにも大勢いらっしゃいますけれども、産業界の皆さまでありますとか、或いは環境団体の皆さま、市民の皆さまとも意見を交換させていただきながら、今年の3月に報告書自体は完成させていただきました。

ただ後ほど申し上げますけれども、尼崎版グリーンニューディール、決してこれで完成ではありませんで、ここからがスタートという事ですので、このお話は後ほど差し上げたいと思います。



この報告書、尼崎版グリーンニューディール自体は、よく行政がつくる、例えば総合計画ですとか何とか計画といったような、行政計画の類ではなくて、あくまで考え方、言わば1つの政策方針といいますが、こういう考え方に基づいて、これから先、新しい政策ですとか事業を考えていこうということです。

言わば今後、政策のパッケージをつかっていく為のひとつの拠り所、指針だという事で考えていただければと思います。

パッケージの中身を構成する個別の事業などについては、毎年度検討し加えていきます。

そこで皆さまにお願いいたしますが、これからも引き続き、この環境と産業の共生ですとか、地域経済の好循環、こういったものを目指す取り組みについて、是非皆さまと意見交換をさせていただきながら、今日もその場のひとつだと思っておりますけれども、私どもから考え方をご説明させていただきまして、是非「もっとあした方がいい。こうした方がいい。こんな事が出来ないか」といったご意見を私どもにお寄せいただきたいと思いますというふうに思います。

本市では、産業界の皆様と一緒に、「ECO未来都市・尼崎宣言」というものもさせていただいておりますので、是非そういったところも一緒に連携しながら進めていきたいという風に思っております。

まずは背景の部分として、世界的なトレンド、日本のトレンドですけれども、先ほど申し上げたように、リーマンショック以降、特に米国が有名だと思いますが、グリーンニューディール政策がございます。

ニューディール政策にグリーンが付いているわけですが、所謂環境分野、或いは再生可能なエネルギーの分野、そういった分野に資源を振り向けまして、投資や雇用創出、経済効果を期待し、そういった事をもって、リーマンショックを乗り切るための一つの切り口にしていこうという政策だったと記憶しております。

地球サミット・リオ+20と「グリーンエコノミー」

それで、実は今年の6月、もう二ヵ月後に迫ってきましたけれども、地球サミットがございます。

地球サミットといいますのは、1992年のリオデジャネイロが第一回でございますが、国連の中でも最大級の会議です。

環境問題ですとか貧困問題、地球上のそういった難しい問題を各国の首脳級が集まり議論していく場でございますけれども、92年にリオで行われた第一回のサミットから20年が経ちまして、再びリオで地球サミットが開かれます。

その間に、2002年に南アフリカのヨハネスブルクで地球サミットがあったわけですが、それから数えても10年。

まあ10年・10年の節目でまた地球サミットが開かれるわけですが、私が聞いているところでは、日本は野田総理が出席する方向で検討されているというように聞いております。このように各国から世界の首脳級が集まって、また、政府だけではなく、ビジネスセクターでありますとか、或いはNGO、いろんな人たちが集まり、世界の今後の道行きについて議論をいたします。中でも、今回のサミットの一番大きなテーマが「グリーンエコノミー」という事になっております。

このグリーンエコノミーというのは何かと言いますと、これから先の世界のトレンドは経済活動が公害問題を起こすとか、貧困問題を起こすというのではなくて、経済活動自体がそういった環境問題とか貧困問題を解決していくツールにならなければいけないと、そういう考え方のひとつかと思えます。

そういう事で、環境投資や環境ビジネス等の経済活動に、今たくさんの投資が世界でも行われておりますけど、そういった考え方です。

そういう先のがこの6月の地球サミットでも議論がされるとい事で、世界全体が、やはり環境という先のを経済活動の中心に置いているのではないかとい事が言えるのではないかと思います。

もうひとつは日本の方ですが、日本もグリーンニューディール政策とい事で、遅れまいという事で、「日本版グリーンニューディール」という先のを作成しております。

また、これは政権交代した後ですが、新成長戦略とい事で、その中でも環境問題、「世界に誇る日本の環境資源の活用」ですとか、「低炭素・循環型・自然共生型社会の実現」ですとか、或いは「環境・経済の一体的向上を図る」ですとか、そういったことで、新成長戦略が書かれております。

新成長戦略の中に、こういった環境に関する、或いは経済に関する事項が書かれております。

また、昨年日本では東日本大震災がございました。

それを受けまして、この夏も原発がどうなのかという議論もございますけれども、「一層の省エネの推進、或いは再生可能なエネルギーの推進」、こういった事がこれから求められてくるという事になります。

次に、世界と日本の状況は分ったけれども「尼崎はどうなんだ」ということについてです。

尼崎の歴史を少し紐解いて見ますと、地理的な条件もございまして、尼崎はこれまで都を支え、或いは特に明治以降、昭和の経済成長期が有名かと思っておりますけれども、工業化を通じて国を支えてきたという事が言えるかと思っております。

以前はそういった経済成長が優先で、私もよく聞きますのは、特に南の臨海部に近いエリアに、むかし火力発電所があった頃は、布団を乾したらずくに真っ黒になってしまったとか、煤煙とかの所為かと思っておりますけれども、しかしながら今はそんな事はなくて、当時の方たちが一生懸命努力されて、企業の方も努力された。また、市民の方々も一生懸命努力された。

それでようやく産業発展と環境問題の改善、そういったものがうまく均衡しながら、或いはこれからの時代、関係団体や産業界がお互いに手を取り合ってよい関係を作っていくところまで来ているのではないかという風に思います。

この尼崎でも、そういった取り組みがこれまで行われてきているという事かと思っております。

先ほど申し上げましたけれども、今や環境問題は一地域、或いはひとつの国の問題ではありません。地球温暖化問題ですとか生物多様性の問題ですとか、いろんな地球環境問題があります。

尼崎は、これまで経済を通じて、国を支えてきたという誇りを持っていいんだと思うんですが、これからは野心的に、更に進んで、地球環境にも貢献していこうじゃないかという事が、尼崎版グリーンニューディールのひとつの考え方にもなると思っております。

次に、尼崎が持っている強みをもう少し考えてみようという事ですが、私が言うまでもありませんが、そもそも都市機能が非常に充実していて、また鉄道にしても三つの鉄道が走っていたりとか、バスなどもたくさん市内を走っているという事で、また地域全体が平坦で、私自身も早速尼崎市に赴任しましたら自転車を買いまして、自転車で通勤したりしていますけれども、非常にそういう意味で便利な街だという事が言えると思います。

また、産業集積と高い技術力。今日ここにたくさんの方がお越しかと思っておりますが、そういった尼崎が誇る中小企業の高い技術力、そういったものも活用していけるんじゃないかと思っておりますし、また先ほどより申し上げている環境を守る活発な市民活動もありました。

そういったものも地域の資源として活用できると思います。

また、「ECO未来都市・尼崎」ということで、産業界と一緒に宣言をさせていただいておりますけれども、



こういう基盤と言いますか、尼崎が持っている多様な強み、こういったものをうまく活かしながら、これから尼崎版グリーンニューディールの政策・事業を考えていきたいという風に思っております。

まとめてみますと、世界の潮流、日本の潮流、こういったものを踏まえて、また各時代のニーズですか、或いは尼崎が持っている強み、そういったものを踏まえていきますと、

やはり地域経済を意識した環境政策ですか、環境を切り口とした産業政策に、正に尼崎市は取り組んでいくべきだろうという事が言えるかと思っておりますので、この尼崎版グリーンニューディールは時宜を得た取り組みだと考えております。

尼崎版グリーンニューディールの目指すもの

では、尼崎版グリーンニューディールはそもそも何を目指しているのかという事ですが、先ほど申し上げたように、稲村市長が三本柱という事で市政の方針を掲げさせていただいております。

ひとつは「コンパクトで持続可能な街」を実現していこうという事でございます。

後のふたつは、「信頼と分かち合いの街」ですか、或いは「市民自治の街」という事で、後のふたつも非常に重要な稲村市政の三本柱なんですけれども、どわけ、この尼崎版グリーンニューディールではコンパクトで持続可能な街、こういったものを目指していこうという事です。

では、具体的にはと言いますと、これも意欲的と言いますか、野心的な取り組みになっておりまして、市内の環境の向上ですか、或いは地域経済の活性化、新規事業・雇用などの創出、こういったものを同時に達成していく事を狙っていこうと。

一個一個やるのではなくて、ひとつの政策で三粒おいしいといったところを狙っていけないかなという風に考えております。

これをもう少し具体的に言いますと、環境と産業の共生ですか、地域経済の好循環、こういった事を目指す取り組みを行うことによって、実現していこうという事でございます。

それで、一般的なニューディール政策ですか、グリーンニューディール政策と言いますと、どうしてもイメージが先に来ますが、何か大規模なお金をドーンと何処かに落として、大規模な公共投資をもって経済効果を生むといいますが、雇用効果を生み出すと、そういったような事が考えられるかもしれませんが、けれども、ここにお集まりの方々にご承知のとおり、尼崎市も財政的になかなか厳しい状況

にあり、そういった大規模な公共投資にはなかなか乗り出しにくい状況です。

また、これは市長も申し上げておられますけれども、私のような国から来た人間がこういう事を言うのも何かかもしれませんが、この間ずっと我が国では公共投資をやってきました。

近年では、毎年毎年、総理が変わります。総理が変わると何か新しい事をやりたい、目の前の問題を解決したいと思いますので、どうしても毎年毎年、不況対策、景気対策だというのは、雇用対策、或いは経済対策とあって、公共投資をたくさんやるわけです。

そうすると皆さんご承知のとおりで、膨れ上がるのは借金ばかりで、もはや一千兆円にまで達するというような、考えられないような国の財政状況になっております。

こういった事で、尼崎自体はそういった事の反省に立って、現在、財政運営をやっておりますので、今や大規模な、カンフル剤と言いますか、モルヒネ的なその場しのぎのような公共投資は出来ない、或いはしたくないという事です。じゃあどうするんだという事で、時間はかかるかもしれませんが、先ほど申し上げた尼崎にはたくさんの強みがあると。そういった強みの部分を活かして、また、当然限られてはおりますけれども、多少なりとも財源を使って、或いは民間企業さんであるとかNGOさん、こういった外部の力を活用させていただきながら、これらを最大限組み合わせ、尼崎ならではの取り組みを進めていきたいと考えております。

効果が現れるのはゆっくりかもしれませんが、着実にこの尼崎の体質を改善していくような、或いは日本の新しいモデルと言いますか、そういった事を狙っていこうじゃないかという事で、劇薬か漢方薬かというような言い方をされるかもしれませんが、尼崎版グリーンニューディールは漢方薬的な効果を狙い、全体に効果が波及するような、東洋医学的な発想でいこうというイメージで捉えて頂ければいいかと思っております。

地域経済をまわせ

環境と経済の共生と地域経済の好循環を目指す取り組みの基本的な考え方でございますけれども、地域経済ですので、そこに需要がなければ、供給の方もいくら環境に対する何か供給を産もうと思っても難しい訳ですので、その需要と供給がうまくまわるような取り組み、そういった事を考えていきたいと思っております。

具体的には、尼崎市内のCO削減でありますとか、再生可能なエネルギーの推進、それに対して企業側、産業界側が、いま既に持っている環境技術、製品、サービス、たくさんあると思っております。

それらを更に推し進めて、そういったものを需要に対して提供していただきたい。

そういったところに対して、我々尼崎市も、或いは市民の皆さんも一緒になって取り組んでいきたいという風に考えております。

もう少し具体的に言いますと、四つの視点というものを設けたいと思っております。

ひとつは「民間のエコ需要を喚起」するということで、市民のライフスタイルを変革していくと、
或いは事業活動において、環境配慮を推進していただいたり、或いは環境活動そのものに取り組んでいただいたりするということでございます。

もうひとつは「公共の方でもエコ需要を喚起」していこうという事で、街づくり全体の中で、我々は公共施設も持っておりますので、そういった中でも、環境配慮の視点をしっかり織り込んでいこうという事でございます。

もうひとつは、「需要に応える供給促進」という事で、そういった環境配慮の需要に応えるような産業、或いは新規の起業とか、そういったものを是非支援していきたいという風に思っております。

最後に、「市民・事業者のエコ意識・行動の変革を促進」とありますけれども、地域全体でこういった取り組みを進めていくためにも、例えば環境の教育活動ですとか、啓発活動、そういったものも重要かと思えますし、地域資源を活かした環境保全の取り組みです。今でも既に成されていますけれども、そういったものをこれから先もどんと一緒にやっていきたいという風に思っております。

ひとつのイメージとして、先ほど申し上げたように、需要と供給がうまく回って、地域経済のパイを拡大していくと言いますか、そこに尼崎市としても循環油と言いますか、地域経済の歯車をうまくグルグルと回していく為に、施策・事業を行って、この歯車をしっかりと回していきたいという風に思っております。

尼崎版グリーンニューディールの進め方

今までが尼崎版グリーンニューディールとは何ぞやという基本的な考え方の部分だったのですが、ここからはもう少し具体的に、今後このグリーンニューディールの政策をどのように進めていくのかというお話をさせていただきたいと思っております。

ここに描かれていますのは、これからの大まかな方向性と言いますか、展開のイメージです。

この尼崎版グリーンニューディールは、今年一年で終わるというものではありません。

あくまでスタートという事で、キックオフでございます。

ですので、我々は25年度に向けて、事業を検討しておりますし、役所ですので、単年度会計のところがございますので、一年一年といった形で、民間の企業に比べるとスピードは少し遅くなるかもしれませんが、しっかり毎年毎年の予算を考えていく中で、しっかりとこの尼崎版グリーンニューディールの考え方を踏まえて、事業・施策を考えていきたいという風に思っております。

それで第一弾という事で、今回事業を政策パッケージという形で取りまとめました。

平成 25年度に第二段、26年度第三段と、また27年度、28年度、いつまで続くのか分かりませんが、少なくとも稲村市長が市長であられる間は、恐らくこの取り組みが続いていくだろうという風に思います。

具体的には、専門家の方々、有識者の方々、そういった方々のご意見もいただきながら、庁内での推進会議を設けまして取り組んでいくという事になります。

24年度の反省を踏まえ25年度に活かし、また25年度の反省をしっかりと踏まえ26年度に活かすという事で、最終的に、先ほど申し上げたコンパクトで持続可能な街を実現するという方向に向かっていきたいという風に思っております。

それで、尼崎版グリーンニューディール自体は行政が持っているような何か計画というようなものではないんですけれども、当然他のこういった計画と関係してくる部分がたくさんございます。

ひとつ一番大きいのは、今まさに作成中の尼崎市の総合計画です。

これは平成 25年度からスタートするという事で、実は荒々のものが既に出て上がってきておまして、審議会も何回もさせていただいて、有識者や市民の方々からもたくさんご意見をいただいております。

実は、議会の方でも総合計画特別委員会を設けて、市議会の議員の方々からもたくさんご意見を頂戴して、みんなで知見を集めて意見を出し合って、新しい尼崎市の総合計画を作っているところでございます。そういったところとも非常に密接に関係してきますし、また環境関係の計画ですとか、その他さまざまな街づくりに関係する政策とも大きく関わってくるという事でございます。



先ほど申し上げました、グリーンニューディールの推進の体制ですが、具体的には4月から新しく組織を改変しまして経済環境局という部署を設けました。

先ほどご挨拶させていただきました、経済環境局長も来ておりますが、元々は、経済は産業経済局という部署があり、環境は環境市民局といった部署があり、環境と経済は別の部署でやっておりましたが、稲村市長の強い意向があり、これからの時代は経済と環境というものが一体になってやっていく事が非

常に重要であるという事で、尼崎市からこの取り組みをはじめようじゃないかという事で、経済環境局を設置いたしました。

それで、この4月から強力にこの尼崎版グリーンニューディールを推進していこうという事でございます。

また、これも先ほど申し上げましたが、当然一局だけではございません。他の部署、他の局にもたくさん関係する問題ですから、尼崎版グリーンニューディールの庁内推進会議といったものを、まだ設置は出来ておりませんが、これを早急に設置する事を検討しています。

出来ればゴールデンウィーク前、遅くともゴールデンウィーク明けには、第一回の庁内推進会議をやりまして、具体的に取り組みを進めていきたいと思っています。

また、アドバイザーレポートも書いてありますけれども、たくさん専門家の方々、有識者の方々からご意見を頂戴しながら、是非この取り組みを進めていきたい。

検討における視点ですけれども、これは尼崎だけではなくて、他の海外ですとか他都市でも、いろんな所でもこういった環境と経済の取り組みが成されていますけれども、ぜひ「尼崎版」と付けておきますので、ひとつのモデルとなるような、そういった事をやっていきたいと思っています。加えて、他の優良な事例があれば、どんどん意欲的に取り入れ、導入の可能性とか、或いは国の方でも、我々も「ECO未来都市」と宣言していますが、環境モデル都市や環境未来都市といったような、何らかの自治体をサポートする制度もございます。

そういった事もどの程度活用できるのかといった検討もしていきたいと考えております。

早速私自身も、今年の二月末に、環境未来都市に選ばれている自治体にも視察に行っていました。

関東の方ですと、横浜市ですとか柏市とか、そういった所で実際に取り組んでいるところも勉強させていただいておりますので、そういった事もぜひ尼崎市の中にも還元していきたいという風にも思っています。

また、これは特に稲村市長もおっしゃるんですが、規制改革等も含めた中長期的なルールメイキングです。

これは先ほども申し上げたように、何かお金をトカんと落として、それで新しい事をやっていくというような時代ではありませんので、特に我々公務員は、お金がなくても頑張って知恵を出して汗をかいて、そういった部分で一生懸命やっていき、特に、規制改革、規制緩和、規制強化、いろいろな手法があると思いますけれども、そういったものもゼロベース、最初から難しいとあきらめるのではなくて、ゼロベースで何か出来ることはないかとしっかり考えて欲しいという事も市長は申しておりますので、そういった事も考えていきたい。

また、これは当然といえば当然なんですが、行政はなかなかPDCAで言いますと、プランを作ったらプランを作りっぱなし、或いはやったらやりっぱなしという部分がありますので、しっかりとチェックをして、その次のアクションに結び付けていきたいという風に思っています。

今後の具体的な事業展開

それでは、具体的にどういった事をこれからの展開として考えているかという事なんですが、ひとつの例としましては、エネルギーの分野でしたら、最近話題のスマートグリッド・スマートコミュニティです。

これは、尼崎市の塚口にある三菱電機さんの工場でもスマートグリッドの実験をされておりますけれども、うまく連携できないか、或いは、この7月から再生可能なエネルギーの全量固定価格買取制度が始まります。

経済産業省の方で、「この買取価格をどうするんだ」という議論を正に今されておりますが、こういったものもしっかりと睨みながら、最初の三年間はプレミアム価格で、少し高めに買い取るという事も言われておりますが、あまり時間はありません。

そういった意味で、スピードを上げて検討をしていきたいという風に思っています。



また、交通です。持続可能な交通体系をどう考えるのか。

先ほども申し上げましたけれども、本市の地勢は平坦な土地ですので、自転車の更なる有効活用ですとか、或いはEVと書いてありますけれども、電気自動車。こういったものが活用できないか。或いは暮らしの面で、住宅面からの環境配慮ですとか、公共施設の更新時における環境配慮、或いは環境教育の更なる充実です。

ここに書かせてもらっているのはあくまでひとつの例でございますけれども、検討していきたいと考えております。

また、先ほど申し上げたPDCAの成果指標。

雇用効果とか経済効果、これは数字で指標を指し示していくのはなかなか難しいのですが、出来るだけしっかりとチェックが出来るように、環境効果ももちろん、考えていきたいという風に思っています。

今年度から取り組む事業

最後に、今年度から取り組む具体的な事業をかい摘んで少しご紹介しますと、例えば「環境保全対策推進事業」という事では、大阪ガスさんのエコウィル、エネファーム。

こういった器機を家庭に設置するときに、少し補助をさせていただいたりとか、或いは、私立保育園・幼稚園。そういった施設の屋根に太陽光発電の設備をつけるときに、少し補助をさせていただいております。

私もこの日曜日に視察に行きましたけれども、尼崎の中でも市民が共同で出資して、保育園とか老人ホームの屋根に太陽光パネルをつけてやっていらっしゃるところもございますので、そういった事を、もっとドンドン・ドンドン尼崎の市内でも出来ないか。その際、市内の業者さんであれば少し優遇するという事もやっていきます。

或いは「街路灯のLED化」も進めていく、或いは中小企業の皆さんの技術の開発。或いは環境に関する取り組みの支援という事もやっていくということで、日本政策金融公庫さんともタイアップさせていただきまして、利子補給という形でやっていこう。これは実は政策金融公庫さんでも、自治体と一緒に取り組みをするのは初の試みだそうで、我々としても非常に嬉しく思っています。

また、「あまがさきエコプロダクツ支援事業」という事で、市内で製造される環境負荷の低減に寄与するような工業製品を発掘していったりとか、或いは、それを広くPRしていこう。或いは「環境・エネルギー技術強化支援事業」という事で、これは国の資金も活用しながら、そういった技術強化の部分もしていきたいと考えております。

また、「市民・事業者のエコ意識・行動改革」というところでは、数はそんなにありませんが、雨水貯留タンクについても設置したいというご要望もありますので、そういったところにも補助させていただいたり、「あまがさき環境オープンカレッジ推進事業」というところでは、尼崎市全体をひとつの大きな大学のキャンパスと見立てまして、尼崎市の中でいろんな環境への取り組みをなされていますけれども、それをひとつひとつの授業と見立てまして、子どもさんが例えばNGOの取り組みの中に一緒に入って行って、環境教育的なことをやっていくとか、こういった事もやっております。

そして「尼崎版グリーンニューディール推進事業」ということで、これは全体の取り組みを進めていくためのエンジンともいえる、今後の検討を更に進めていく為の種銭でございます。

こういったものを合わせて、まずは、この平成24年度やっていきたいという風に考えています。

ただ先ほど来申し上げていますように、あくまで、まずは産み落としたいというところでございます。

これで留まるものではなくて、これをドンドン・ドンドン大きく育てていき、先ほど申し上げたような検討分

